

北水試 百年 こぼれ話

⑫ 昭和40年代と50年代の 職員集合写真二題

キーワード：昭和40年代、昭和50年代、職員集合写真、稚内水試と天北農試の交流会、北水試第1回野球大会

昭和39（1964）年に北海道立水産試験場は1本場4支場制を廃止し5水産試験場が設置され、北海道区水産研究所とも組織的に完全分離したことが背景にあるためか、これ以降では北水試百年こぼれ話シリーズの④と⑤（北水試だより80号と81号）で紹介したような大人数の職員集合写真は図書室の資料に残されていません。むしろ写真機が庶民一般に普及する中で、職員同士の親睦会やレクリエーション活動での記念写真が主流となり、組織としていわゆる写真屋さんをお願いする集合写真は廃れていったものと思います。

今回は、昭和40年代と50年代の職員集合写真を紹介します。実は昨年、北水試だより80号で紹介した昭和14年の職員写真（判明した方の氏名明記）に写っている職員が祖父ではないかという方から「若い頃の写真がないのでHPに掲載されている写真より解像度の高いものを提供してもらえないか」との問い合わせがありました。一方、北水試だより81号に掲載した昭和30年の職員写真については、人数が多いため氏名を掲載せず、中央水試1階ギャラリーに氏名入りの写真を展示していることを紹介しましたが、展示の入れ替えなどにより、この展示資料は行方不明となり未だ発見できていません。記録として書き残す時に残しておかないとこういう運命になるものだと痛感した次第です。そこで、今回は写っている方のお名前も明記することにしました。

さて、ひとつ目は、昭和45年頃と思われる「稚

内水試（稚内市）と天北農試（現在の上川農試天北支場、浜頓別町）の職員交流会」の記念写真です。平成22（2010）年8月に行われた稚内水試開設100周年記念イベント（北水試だより82号参照）の一環で集めたもので、OBの富田恭司氏提供の写真です。早速、上川農試天北支場の木曾誠二支場長に氏名判別を依頼したところ、浜頓別町在住のOBが大変懐かしいと喜んでくれて農試関係の13名の名前が判ったと連絡してくれました。貸し切りバスの前での記念写真で、富田氏によると天北農試内で撮ったものと思うとのことでした。道立時代には、試験研究機関同士の組織および職員の連携の場として「道立試験研究機関連絡協議会（試連協）」というものがあり、道内の各地区でこうした異分野の試験研究機関同士の交流がありました。札幌地区から遠く離れた宗谷地区で試験研究機関同士が絆を深めていた、そんな時代の一コマです。

ふたつ目は、北水試百周年記念誌（2001）の「思い出集」の章（571頁）に掲載されている「第1回北水試野球大会（昭和54（1979）年、釧路市）」の写真です。ここに写っている多くの申年生まれ（昭和31年度）の職員は平成28年度末で60歳の定年を迎えるのですから、月日の経つのは早いものです。ただか37年前の写真ですが、個人的に行ったこともあり、臨時職員の方もいるので全員の氏名を確認するのに10年もかかってしまいました。写真撮影者は当時釧路水試所属の小笠原惇六氏です（まだセルフタイマーなどの装置も付いていなかった

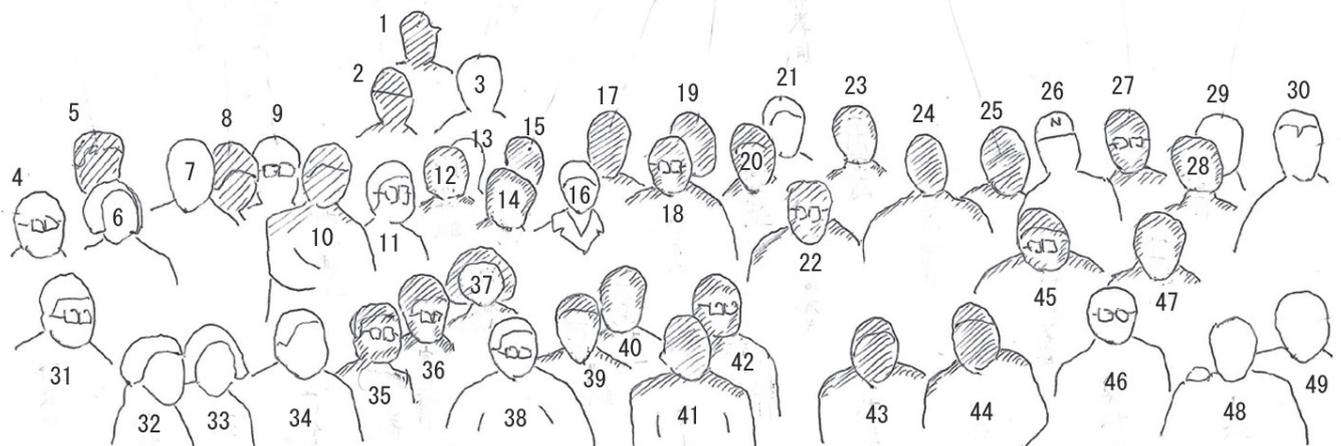


写真1 稚内水試と天北農試の交流会記念写真(昭和45年頃)、斜線の人物は水試関係者

1：高橋昇、2：小野田豊、3：大崎玄佐雄、4：西田昭寿、5：佐々木勝、6・7：不明、8：高橋やす子※、9：森田昇、10：渋谷賢仁、11：不明、12：瀬川哲雄、13：不明、14：南薫、15高木元成、16：不明、17：小杉寛夫、18近藤平八、19：大久保照明、20西村春雄、21寺井孝司、22福田敏光、23：古間木光弘、24：盛和美、25：鈴木正治、26：不明、27：田澤伸雄、28：土倉勇、29：山上正弘、30：関口久雄、31：坂本宣崇、32：佐藤真知子※、33：藤井敬子※、34：高倉正臣、35、尾崎※、36：富田恭司、37：大久保(照明氏の娘)、38：不明、39：阿部岩雄、40：石黒貞二、41：大島浩、42：橋本健司、43：佐々木義雄、44：川合義春、45：川嶋孝省、46：奥村純一、47：加藤健仁、48：小林幸男、49：北守勉、(敬称略、※印は臨時職員)

ため撮影者は写っていません)。

5水試4試験調査船の合計9チームが1年に1回、9月の連休前後を活用した1日だけの全水試的な野球大会(従って1チーム2試合、優勝は勝利数と得失点差で決定、夜は懇親会)を各水試持ち回りで開催するというもので、道内の道路網の

整備や自家用車の普及という背景があったものの、かなりな情熱と努力無くしては始められなかったと思います。当時は全国どこの企業・役場にもいわゆる草野球チームがあり、朝野球など盛んに行われていた時代でもありました。

その後、水試の野球大会は道立水産孵化場や水

産技術普及指導所チームも加わって継続されました。こうしたイベントは、全道に分散している職場への愛着感や一体感の醸成並びに人間関係の潤滑油としての効果があったと思います。しかし職員の高齢化、余暇の多様性による野球部員の減少、持ち回り事務局や移動にかかる負担や交通事故のリスク面等から、平成21(2009)年の第31回大会をもって終了しました。ちょうど平成22年の道立試験研究機関の独法化の前年という組織改革の節目にもあたっており、ひとつの時代が終了したと言えるのかもしれません。

平成28(2016)年の日本プロ野球では、北海道日本ハムファイターズが10年ぶりに日本一に輝き、大谷翔平選手のリアル二刀流が話題となり、北海道は大いに盛り上がりました。しかし一方で、業績不振による道内社会人硬式野球部の休部など、特に団体競技のスポーツ界をめぐる環境は厳しいものとなっています。こうした写真が「旧き良き時代」と言われたいような世の中であって欲しいと思っています。

(吉田英雄 水産研究本部企画調整部)

報文番号 B2411)

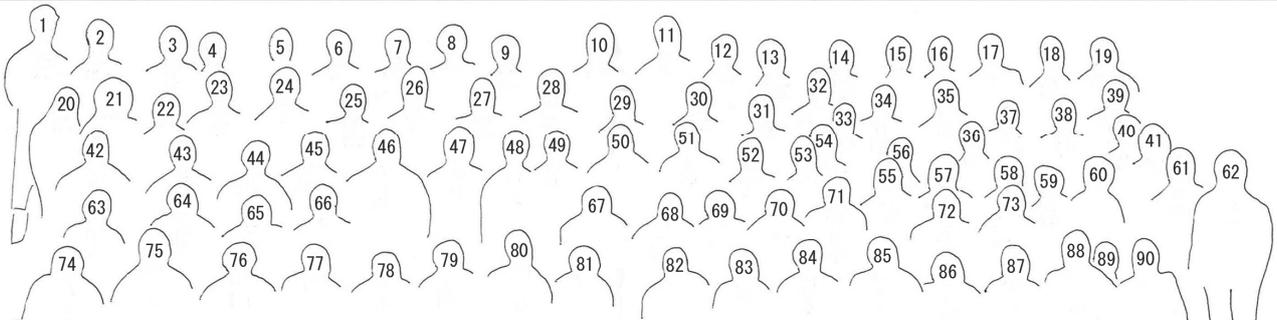


写真2 第1回北水試野球大会記念写真(昭和54年、釧路市河畔球場にて)

1:堀内政宏、2:阿部英治、3:小鳥守之、4:八木弘幸、5:田村真樹、6:富田恭司、7:新原義昭、8:阿部剛、9:大堀忠志、10:竹沢邦明、11:金子博実、12:白山一雄、13:川嶋宏樹、14:川辺雅紀、15:田端隆、16:安保裕司、17:高橋昇、18:大久保照明、19:渡辺登、20:福原※、21:尾崎※、22:池田※、23:渡辺智視、24:西紘平、25:宮本建樹、26:松山恵二、27:谷掛要三、28:今村琢磨、29:宇藤均、30:清河進、31:福田国会、32:宮川卓磨、33:太田昌大、34:宮下高治郎、35:布川好見、36:牧野稔、37:角田富男、38:高丸禮好、39:川又龍二、40:石黒貞二、41:永谷厚、42:金子孝、43:佐藤敬三、44:阿部朝雄、45:相内与一郎、46:川嶋孝省、47:北口孝郎、48:佐野満廣、49:丸邦義、50:菊地和夫、51:一杉哲朗、52:加藤健仁、53:塚田重、54:古間木光弘、55:水島敏博、56:杉田弘之、57:干場(妹)※、58:干場(姉)※、59:滝沢佳澄※、60:本間※、61:小池幹雄、62:村上幸一、63:臼杵睦夫、64:鞍留国男、65:我妻久、66:大坂昌博、67:中山信之、68:成田幸春、69:高橋玄夫、70:山下豊、71:鳥谷部憲男、72:中田淳、73:佐崎邦弘、74:佐々木孝雄、75:中村勝己、76:畑山稔、77:島崎利春、78:杉本卓、79:坂本正勝、80:田島健一郎、81:大島浩、82:佐々木義雄、83:辻敏、84:上田利幸、85:中山伸二、86:小林秀哉、87:甲地一嗣、88:山崎寿彦、89:飯塚※、90:野俣洋、(敬称略、※印は臨時職員)